

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハーク
事業所名	グループホーム ルンビニー
所在地	松山市安城寺町5 3 0 番地 1
自己評価作成日	平成20年10月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重度化になっているフロアであるが、気付きを大切に、何事にもあきらめず創意工夫をしながら挑戦する介護を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員が、地域の草刈りに参加したことがきっかけとなって、地域の方に、輪越しや運動会に誘っていただき、利用者と共に出かけられた。地方祭には、お神輿が来てくれたり、ちょうちん行列の際には、利用者が子ども達にお菓子を手渡された。職員と利用者が一緒に回覧板を回したり、お花を下さるご近所の方に、お菓子を届けたりされている。
管理者は「もしもの時、ホームの力だけでは限界があり、地域の方のお力を借りたい」と考えておられ、普段から散歩等を通じて、ご近所の方と顔見知りになれるよう取り組まれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 五藤 恵

評価完了日

21年 10月 9日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) BS法を取り入れ職員全員の意見をとりまとめ、理念を作成し掲示している。ただし理念作成から4年が経ちそろそろ見直しの必要性が求められる。理念を基本に、月目標を決め日々の生活に取り組みている。1ヶ月に1回行っているミーティング時にひとりずつ反省し、次の目標に繋げている。	
			(外部評価) 事業所では「利用者個々の思いを汲み取り生活を豊かにする」「人として当たり前関わりと支援」という理念を作成し、共用空間に掲示されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 蓮の花を通して地域の方がルンビニーに足を運んでくださった。運動会やお祭りなどの地域の催し物に参加することが出来た。又、草刈りに参加することで、班の方との交流を持つ事が出来はじめた。お向かいの住人さんで行き来している。	
			(外部評価) 職員が、地域の草刈りに参加したことがきっかけとなって、地域の方に、輪越しや運動会に誘っていただき、利用者と共に出かけられた。地方祭には、お神輿が来てくれたり、ちょうちん行列の際には、利用者が子ども達にお菓子を手渡された。職員と利用者が一緒に回覧板を回したり、お花を下さるご近所の方に、お菓子を届けたりされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 看護学生や職場体験の実習、リーダー研修の実習を受け入れている。運営推進会議では、認知症についての勉強会、又、地域フォーラムを開催し、地域にむけて認知症を理解していただくよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族OBであり、ボランティアで来ていただ いてる方に参加して頂き、今まで以上に良 いアドバイスをもらっている。今後は地域 の班の方にも参加していただきたいとおも っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民生委員、公民館長、ボランティア、地 域の他グループホームの方も参加して会 議を開催されている。まずは、地域の方 達に認知症について理解を深めていただ きたいと考えておられ、認知症サポート 医である代表者が「認知症について」講 演をされている。代表者は時に、マジッ クショーを披露されることもある。</p>	<p>事業所では、会議に派出所の警察の方 や地域の方、ご家族の方の出席を増やし たいと考えておられる。さらに、利用者 の参加や議題の工夫等、いろいろなご意 見をいただけるような工夫を重ね、事 業所のさらなるサービスの向上につな げていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り 、事業所の実情やケアサービスの取組み を積極的に伝えながら、協力関係を築く ように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>松山市の方にも運営推進会議に参加し ていただいている。何でも相談でき、い ろいろな面で協力してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の依頼により、東京都から十数名の 議員の方々が視察に来られた。法人では 、認知症について「地域フォーラム」を 定期的に開催したり「物忘れ相談」も 行われている。又、市や市社協の担当 者の方に「ボランティア募集」の協力 をお願いされた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準 における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、玄関の 施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>10月22日に法人内の研修を行い正 しく理解することが出来た。又、スタ ッフ全員拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中は玄関に鍵をかけず、職員は利 用者を見守っておられる。管理者は 「もしもの時、ホームの力だけでは 限界があり、地域の方のお力を借 りたい」と考えておられ、普段から 散歩等を通じて、ご近所の方と顔 見知りになれるよう取り組ま れている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待とはどういう事なのか?!というところから、法人内の勉強会を開催した。それによってスタッフが理解する事が出来、注意を払い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際利用されている入居者がいるも、スタッフ全員理解しておらず、法人内の勉強会を開催することで理解でき、活用している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には、時間をかけて説明を行い、納得していただいている。不安や疑問に関してはその都度説明し理解していただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自分の気持ちを表出できる利用者には外部へ表せる機会を設けるよう努力している。自分の思いを表出できない方に対しては、表情やしぐさから思いを汲み取るよう、努力している。日頃からご家族との関わりを大切にして人間関係作りに努めている。又、何でも言いやすい環境作りにも気を配っている。今回の家族会は、食事をしながら行った。少しお酒も入ったが、本音で話す機会となった。 (外部評価) 毎月、法人内の他グループホームと合同で便りを発行されており、写真を採り入れて行事や外出、日ごろの様子を伝えておられる。又、ホームページでも便りが見られるようになっている。家族会は、年2回開催されており、今回新たに、食事をしながらの家族会を行われ「具体的なお話ができてよかった」とご家族から感想をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。職員の意見は大切に反映出来るよう努めている。	
			(外部評価) 職員全員に「どのようなことを学びたいか」アンケートを取り、「介護保険について」や「身体拘束、虐待について」等、事業所内で職員の希望する勉強ができるよう取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、度々グループホーム訪れて、スタッフと関わりを大切にし、常に働きやすい環境作りをしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職場内研修を月2回開催している。又、職場外研修においても参加する機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価に参加し、他のグループホームとの交流を図り気づきを養っている。地域フォーラムを開催することでネットワークづくりとなっている。代表者のマジックショーを通して今までと違った交流となっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までに、ご本人、ご家族に会い、生活の様子を伺っている。又、グループホームにも来ていただき、話を聞く機会を作り、少しでも安心できる環境作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居に当たっての説明時にも、ご家族の悩みを受け止め、会話を大切にしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>初回面会時、ご家族の要望を聞き、本人の状況、状態を観察しながら対応している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お互いが支え合いながら、色々な場面を作り、笑顔が引き出せるよう、ケアに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の日々の出来事などをご家族に伝え、ケアの方針を共有していただいている。いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに気を配っている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>隣にある同法人のデイサービスに通われている友人に会いに行ったり、郷里の墓参りにご家族と出かける機会を設けている。本人の希望がありふる里に帰る機会を作りなじみの方と関わりを持つ事が出来た。</p> <p>(外部評価)</p> <p>馴染みの美容室にご家族と出かけてカットされる方や、知人の葬儀にご家族と一緒に参列された方もある。海外に住むご家族へ手紙を出す利用者の方には、職員と一緒に郵便局へ行き手紙を出す手続きをお手伝いをされている。ご家族の心配をされる方には職員の方から声をかけ、電話でお話しできるように支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ぶつかり合う混乱、衝突は極力避けるよう努めている。 利用者同士が挨拶できる場面作りを行っている。 ベッドでの時間が長い方に関しては居室を訪ねて、手を握ったり言葉をかけるなど関わりを大切にしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も週2回、ボランティアとして色々な面で協力いただいている。入院時はお花を持って利用者と一緒に見舞いに行っている。今後、暑中見舞い、年賀状を送ったり行事などにも声をかけていきたい。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 心地よい表情を探しながら思いに添った支援に心掛けている。 (外部評価) 日々の記録は、「利用者の言葉」「家族の言葉」がわかりやすいように印が付けられており、職員の気付きも記入されている。又、利用者の写真入りで、現在の状況や思い、希望等を書き入れ、できることや、できなくなったこと等も、一目でわかるようシートを作成されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報シート、本人の話の中での情報やご家族の話の中から、把握するよう努めている。実際その方の住み慣れた家を見る事によって話を引き出しやすくなった。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の勤務者はもちろん把握しているが、休みのスタッフもその日の様子が把握できるよう記録、日誌、伝達事項に目を通してしている。いつもと違う変化にいち早く気付く事に注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の意見、主治医の意見、スタッフ全員の意見を取り入れ、カンファレンスを行いケアプランを作成している。3ヶ月に1回ケアプランの評価、見直しを行い、ご家族に報告している。その際要望等を伺っている。入院などで状況に変化がある場合は、状態に応じたプランに変更している。変化の状態によっては、区分変更申請をし、要介護度も変わっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人の希望やご家族の要望等も聞き取り、職員の気付きも踏まえてセンター方式の5つの視点に沿って「ケアプラン立案シート」を作成し、介護計画に反映されている。ご本人の状態によっては、医師や看護師のアドバイス等も採り入れ計画を立てておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプラン、ケアポイントを主とした個別記録の記入方法を実践している。 記録の内容は、本人の言葉が主となっている。又、スタッフのこえかけも「」で記入し、それをしてどのようになったか分かりやすく、次につながる記録になっている。気になる点は赤の波線を引き、評価、次のプランに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問マッサージなどを取り入れ、その方に必要なサービスを提供している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティアの力を借りて畑作りをしてもらっている。そのおかげで収穫の喜びを得る事が出来ている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医師とご家族との話し合いにより、いつでも訪問診 療を受けたり、ご家族の希望で受診できるよう支援し ている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて検査もされており、医師から検 査結果についての文章をご家族へのお便り送付時に同 封されている。歯科と皮膚科の往診も受けられるよう になっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気付きを大切に、グループホーム内の 准看護師や医療連携の看護師と相談し、日常の健康管 理や医療活用の支援をしている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) スタッフが何度も病院を訪問し、状態を把握。医 師、ご家族と相談しながら一日でも早く退院できるよ うにしている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約を交わすとき重要事項説明書にターミナルの項 目を設け、できること、できないことなど明確にして いる。終末期になれば、ご家 族、医師、フロア主任、管理者で話し合い、方向性を 決め、同意書を作成し、スタッフ全員で共有してい る。状態が変わるたびに話し合いの場を設け、共有し ている。	
			(外部評価) 管理者は「看取りは生活の延長上にあるものであり、 特別なものではない」との考えのもと、利用者、ご家 族が希望された場合は、利用者を看とりまで支援され ている。最期を迎えられた後、ご家族の同意を得て入 浴(湯灌)もされている。他の利用者の方も一緒にお 別れをされ、希望で葬儀に参列する方もある。事業所 では「利用者が安心・安楽」を得られるよう、事業所 の中や外にもお地蔵様や観音様が、個々の心のケ アも大切にされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) いつもと違う様子に早く気づき、状態に応じた対応ができています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災通報装置に連絡網を入れ、本番さながらに(夜間設定)地域の方を交えての避難訓練を行った。 (外部評価) 避難訓練では、地域の方にも利用者の避難の協力をいただいた。管理者は「地域の方に事業所内を知ってもらえてよかった」と話されていた。災害時には、近くにある法人内のデイサービスの職員に協力してもらえよう連絡網も作成されている。	事業所では、今後定期的に地域の方にも参加していただいで避難訓練を実施したいと考えておられる。2階には、介護度重度の方が多く、避難時、対応等について職員の不安もうかがえる。又、地震時や夜間時等、いろいろな場面を想定して訓練を重ね、安全、安心に向けて取り組みを重ねていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンスや勉強会などを通じて、人生の先輩として心に置き、その方の生活歴に応じた言葉かけを心掛けている。記録には本人以外の入居者をイニシャルで記入している。若いスタッフの中にはキツイ言葉かけがみられる為注意していきたい。 (外部評価) 調査訪問時、「なぜ? どうして? と気付く心で関わる」という月目標を掲げておられた。職員は、利用者に対して親しみのある呼び方で呼ばれていることもある。「おばちゃん」と呼ぶことでご自分を認識されることに職員が気付かれ、ご家族と相談して、そう呼ぶことになった経緯がある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる利用者には、場面づくりを行って働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしたいと思って努力しているも、スタッフの取り決めて過ごしている事が多いように思う。新聞取り・観音様参りなど日課となっている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) カットが必要な時に来てもらっている。生活に応じた身だしなみが出来ている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を楽しむという状態ではないが、畑で採れた野菜を通して、できる力が発見される。	
			(外部評価) 調査訪問時、エプロンをかけて、配膳や下膳、洗い物をされる利用者の様子が見られた。食事しようという意思が薄いような方には、職員がゆっくりと声をかけながら食事がすすむように支援されていた。朝食は、パン食になっていたが、利用者の好み等もあり、今月より週に2回、ご飯を採り入れておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要な人はチェック表を使用し、確実に1日1200CC以上摂取できるようにしている。 栄養不足の人には、捕食で補っている。食べる量は体重増減などを考慮しながら、個々の食事形態を提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態にあった口腔ケアを毎食後日課として実施出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の状態や訴えにより、トイレ誘導を行いトイレ誘導表を作り、排泄パターンを把握している。夜間のオムツ、パッドのあて方は常に検討している。(勉強会を行った)又、本人に合った商品探しもやっている。	
			(外部評価) 尿意を感じにくいような方も、トイレ誘導することによってトイレで排泄するようになられ、現在は、布パンツにパットを合わせて使用するまでになられた事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩を習慣とし、腸の動きを活発にすることを心掛け又、食物繊維を多く摂取するよう心掛けている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴することで、状態の変化がある入居者が多いため、状態変化時の対応ができる日中の入浴が望ましい。	
			(外部評価) 夕食後、お一人で入浴される方は見守りしながら支援されている。ご自分用のシャンプーや石鹸が使われる方もおられる。座ることがむづかしい利用者には、ネット状の入浴マットを使用して、安楽に入浴できるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) できる限り一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休んでいただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬の名前、目的、副作用などが理解できるように、書類を作っている。全員が理解しているとは思えない。服薬ミスがないように確認できるルート作りを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フロアで過ごす事が殆どではあるが、役割、楽しみ事を見つけ、場面作りや、外出などで気分転換を図っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添って、ふる里に帰ったりお花見・ブドウ狩り・ドライブ・買い物に出かける事ができている。	
			(外部評価) 庭に大きな観音様の像があり、毎日手を合わされる利用者もある。花壇には、ご近所の方にいただいたヒヤシンスの球根が植えられており、植えた利用者の名札が立てられていた。事業所では、地域のグループホームと合同でバス旅行に行くことを計画中であった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さを理解しているも、本人の希望、や力がその状態にない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) できる方には、電話をかけたり、手紙を書いたり支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の使い慣れた物を居室に置いている。ご家族の写真を貼ったり思い出の写真を貼ったりと心地よい空間作りを心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所敷地内の入り口に、お遍路さんへのお接待のメッセージが書かれてあり、調査訪問時にも一人のお遍路さんがホームの居間で一休みされ、記念写真を撮ったりされていた。ユニット入口に職員、利用者、ボランティアの顔写真入りのマグネットを貼りだしたことで利用者が職員の名前を確認して呼んでくださっている利用者もある。ご家族が作ってくれたホーム名入りの座布団を使っておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者同士で寄り添って会話したり、足浴したりと、その時に応じた場面作りを行っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベッドで生活している利用者に対しては、スタッフの動線も意識し配置している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>100歳のお祝いに県知事や市長から贈られた表彰状を飾っておられたり、使い慣れた筆筒や鏡台を置いておられる方もあった。ご希望で、畳を敷いておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの場所に大きく標示し、見えやすく分かりやすくしている。</p>	